

ITスキルを高め、 最適な情報をつかもう

日本経済新聞社の情報データベース、日経テレコンをご利用いただいている皆様に、各界のスペシャリストに情報収集について聞くインタビューシリーズをお届けします。第1回目はイーディーエル代表取締役の平塚知真子さん。グーグルを使ったITスキルのレベルアップに向けた指導で定評があります。

Profile

平塚 知真子さん

イーディーエル株式会社 代表取締役
一般社団法人日本10Xデザイン協会理事長
NHK Eテレ『プロのプロセス』に出演。
「クラウドのプロ」としてチョコレートプラネットさんと共演。
「Google for Education 認定トレーナー」及び
「Google Cloud Partner Specialization Education」
の2つの資格を保有する、
国内唯一の女性トレーナー経営者。
明るくわかりやすい指導は、数時間でITスキルを
劇的に引き上げると定評がある。
早稲田大学第一文学部(教育学専修)卒。
筑波大学大学院教育研究科修了(教育学修士)。



―業務内容を教えてください。

研修の提供と、動画を使ったeラーニングコンテンツの販売をしている。動画は単なる操作説明ではない。7～15分の動画を順番に見ていく。3ヶ月でクラウドツールの活用基礎基本が習得でき、1年かけて合計100本を見ていただくと、情報処理スキル、情報活用スキル、表現スキル、問題解決スキルの4つが身につくようになっている。

グーグルの20のアプリを組み合わせると、目的に応じて生産性を10倍にできることがわかる。あとはコンサル業務。企業が自社でアプリをどう使うと組織の情報共有を小予算で効果的に仕組み化ができるのか、ヒントを提供したり、最適と思われる研修をオーダーメイド開発したりして定期的に提供している。

2021年まで顧客の8割は学校関係。5年前、国内に3社しかないグーグルの研修パートナーになった。21年は全国の小中学校などの教育現場をデジタル化するGIGAスクール元年で、全国の学校のうち4割がグーグルを導入し、当社は研修を受け持った。全国各地の小中学校の現場にトレーナーを600回派遣した。22年は、中小企業の方がグーグルを活用して生産性を上げる講座を展開している。

ワード、エクセル、パワーポイント、アウトLOOKなどをオフィスツールというが、グーグルでは20のアプリがオフィスツールに相当する。検索のほか「Gmail」、「グーグルマップ」、カレンダー、スプレッドシートあたりが知られている。情報システムの導入・維持やカスタマイズには300万円から1000万円超の費用がかかるが、グーグルアプリを組み合わせるだけ

で同様のものを作る。その手法をお伝えし、1300万円掛かっていた情報システムの更新をやめることができた企業もある。



会社を立ち上げたとき、学校のホームページで多く使われる「ネット commons」というシステムを扱い、使い方を教える仕事をしてきた。その後グーグルのパートナーとなり、関連業務が増えた。地元の茨城県つくば市は高学歴の専業主婦が多く、都合のつく隙間時間に仕事をしていた。こうした方々に在宅でのITの使い方をお伝えし業務委託している。

情報発信すれば 情報が集まる

―情報を集める際の心がけを教えてください。

もともと私は子育て支援をするNPO法人の創業者。1999年に立ち上げ、情報誌を自費で出版し約3000部を完売した。幼稚園選びや子供と食べにいけない店、おでかけスポットなどを特集し、情報は発信すればするほど集まるとわかった。情報を持っていると認められると「この情報知っている?」と聞かれ、知らないと向こうから教えてくれる。私はお節介なので、同じような立場の人に伝えないともったいない気がしていた。以前、出版社に勤め、広告、

企画、記事執筆、写真撮影まで、全部こなした経験が生きた。「おいしい店の情報は自分だけにとどめる。大勢来ると自分が入れなくなる」という人もいるが私は逆に、教えないと店がつぶれるかもしれないと考える。よい情報はみんなにシェアするようにしている。

情報の8割は足で稼いでいる。方法を知っている人に「教えて」と聞くだけ。不得意な分野は自分で調べたりしない。情報は、血が通った生活に根ざしたもの。「この年齢の男の子でわんぱくだったら、こういう理由であの公園がいい」と具体的に言ってくれるとさらにありがたい。

ー情報があふれる中で、使えそうなものをピックアップしたり、信頼できないものを見分けたりするコツはありますか。

欲しい情報を心の中に思い浮かべ、情報を得るとどんないいことがあるか想像すると、検索キーワードが変わってくる。出張で一人ごはんのおいしい店を探す場合「地名」「レストラン」「ひとりごはん」では普通の検索。私は地元の人が行く店を調べる。グーグルのマイマップに星が付き、口コミの星が多ければ多いほど、本当の生の感想が出てくる。

視点を变えて検索を

反対の意見を検索したり、海外の視点を調べたりするのもいい。グーグル翻訳を使って海外の情報を検索すると、日本人と視点の異なる検索結果が大量に得られる。何を目的に、どういう立場で発言しているかも大事。会社なのか、

NPOなのか、専業主婦なのか。発言によりどういうメリットがあるか。調べると、背景が分かったりする。



ーご自身はリアルの図書館に行ったり、データベースを使ったりもしますか？

図書館にはネット上で情報が入手できないときに出かけたりする。お金を払うと送ってくれるサービスもある。郷土史などの地域情報は、絶対ウェブに出てこない。

ーコロナ禍も3年。多くの企業でリモートワークが定着しました。平塚さんは「リモート強者」という言葉を使っておられますが、どうしたらなるのでしょうか。

リモート強者は、離れていても欲しい情報を、必要な相手からリアルタイムで得る。相手の返事を待つ時間を短くするコツは、相手の時間を奪わないこと。ちょっと聞いてちょっと答える、そんな環境をクラウドで作るコメント機能を使う。ツールをうまく使い、短時間で欲しい情報を手に入れる。相手の最適なタイミングで直接コミュニケーションすることだ。

「リマインド」「アラート」設定でひと工夫

ー検索機能に付いている「リマインド」や「アラート」の良い使い方を教えてください。日経テレコンにもこうした機能があります。

キーワードを登録しておくでメールで通知してくれる機能は、素材を集める期間が長いときや、継続的にウオッチしたいときに向いている。グーグルは「グーグルアラート」で、シンプルでスピーディーな共有が売りだ。

リマインド設定をすると山のように情報が来る。私が日経テレコンを使い、キーワードに「DX」を入れて検索したら10万件ヒットした。「これくらい世の中で知られているのか」と思ったが、このボリュームでアラート通知が来たら大変だ。

10万件が手元に届いてもそのままでは使えないので、取捨選択する必要がある。条件を重ねるのが一つの方法。キーワードを入れたり抜いたりできるし、検索対象の媒体を選ぶこともできる。さまざまな手段を使って工夫するといい。結局、自分が設定しない限りITは情報をくれない。だからこういった機能とまめに向き合い、自分の役に立つような設定を試してみる。

出所が明確 使いやすい日経テレコン

リマインド・アラート機能の使い方も人の好みによって違う。心地よい情報の送られ方は人によって違うので、ポイントをつかむまでトライ＆エラーでやってみてほしい。そこに正解はない。作成したアラートが事前に思ったように機能しなかったら、いったん消して設定し直せばよい。試行錯誤を嫌がらず楽しみたい。



機能活用で時間が有効に使えるようになったら時短が実現する。たとえ1日1分でも、1年365日積み重なれば6時間だ。苦手だとか間違ったらどうしようとか萎縮することはない。

公の媒体に載せるなら出典などで信憑性を示すのが大事。情報は出所が明確でないといけな。ブログやツイッターに書いてあることをそのまま載せたら後が大変だ。日経テレコンは出所が明らかなデータを集め、記事やレポートを書く際の資料集めに使いやすいと思う。

情報収集でよくある悩み

営業



- ・取引先や業界情報の収集に時間がかかる
- ・競合企業の最新情報を見落とす

マーケティング



- ・情報収集に偏りが出ている
- ・幅広い媒体を網羅的に確認したい

広報



- ・目視でチェックできる媒体には限りがある
- ・確認すべき記事を見逃してしまう

経営企画



- ・経営計画策定のために意思決定のベースとなる情報を幅広く収集したい

顧客名や競合企業名を
キーワードとして設定し
日々の動向をチェック

**より顧客に寄り添った
提案が可能に**

業界のトレンドワードに
関する記事を自動で収集
日頃はチェックしない媒体も
閲覧することで

**新たな気づきや
発想のきっかけに**

新着記事や
プレスリリースをメールで通知
チェックする媒体の幅を広げても

**漏れのない
メディアモニタリングが
可能に**

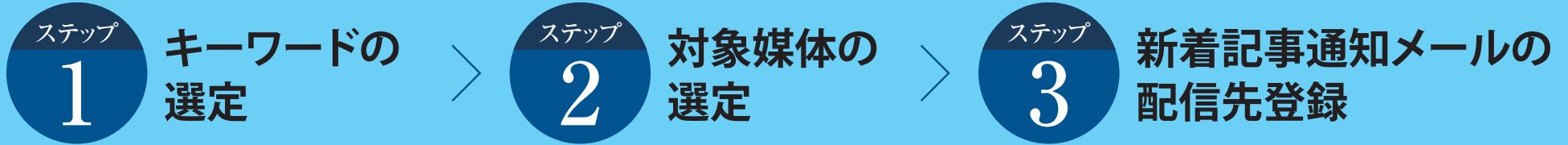
最新の業界情報や
市場動向に関する情報を
タイムリーに収集

**経営戦略の
立案や判断の
スピードアップに**

クリッピング機能で解決!

- ① 情報収集の時間短縮。優先度の高い業務にシフト
- ② 200以上の新聞・専門紙を収録。日頃は閲覧しない媒体もチェック
- ③ 新着記事をメールでアラート。新しい情報の見逃しを防ぐ

気になるテーマを継続的にウォッチ! 登録手順 **3** ステップ!



具体的な登録方法はこちら

<https://t21s.jp/telecomClipping>



キーワードが
決まらない方必見

日経が選ぶ「話題のビジネステーマ」から動向を掴む

気になるテーマの概況やプレーヤー、最新動向を把握

技術の進展や情勢の変化に伴い新しいキーワードが次々と登場してきます。何となくわかったつもりになっているものの、本当は理解していない。最新の状況や動向を正確に押さえない…。そんなお悩みはないでしょうか。日経テレコンの「話題のビジネステーマ」を使うと、選んだテーマを効率よく掘り下げ、短時間で理解を深めることができます。

選択できるテーマの一例

ESG (環境・社会・ガバナンス)

MaaS

自然言語処理

フリマアプリ

車載向けリチウムイオン電池

水素ステーション運営

DX銘柄 2022

二酸化炭素回収・貯留 (CCS)

少額短期保険

詳しくはこちら



<https://t21s.jp/Clippingtopic>

